

令和2年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1)施設名	老人憩いの家(8施設)
(2)施設概要	<p>施設の設置目的 地域の高齢者に対し、教養の向上、レクリエーション等のための憩いの場を供与し、心身の健康の増進を図る。</p> <p>①三橋老人憩いの家 所在地   さいたま市大宮区三橋2-59 開設年月   昭和56年4月 構     造   スレート造 2階建(三橋児童センター)の一部 主な施設   ふれあいの間</p> <p>②三橋老人憩いの家分館分館 所在地   さいたま市大宮区三橋2-259-1 開設年月   平成14年12月 構     造   鉄筋コンクリート造 2階建 主な施設   和室、小会議室、大会議室兼レクリエーション室、ギャラリー</p> <p>③天沼老人憩いの家 所在地   さいたま市大宮区天沼町1-194 開設年月   昭和59年4月 構     造   スレート造 2階建(天沼児童センター)の一部 主な施設   ふれあいの間</p> <p>④宮原老人憩いの家 所在地   さいたま市北区宮原町4-66-13 開設年月   昭和60年4月 構     造   スレート造 2階建(宮原児童センター)の一部 主な施設   ふれあいの間</p> <p>⑤植水老人憩いの家 所在地   さいたま市西区中野林174-1 開設年月   平成2年4月 構     造   スレート造 2階建(植水児童センター)の一部 主な施設   ふれあいの間</p> <p>⑥本郷老人憩いの家 所在地   さいたま市北区本郷町1065-3 開設年月   平成3年4月 構     造   スレート造 2階建(本郷児童センター)の一部 主な施設   ふれあいの間</p> <p>⑦片柳老人憩いの家 所在地   さいたま市見沼区東新井710-78 開設年月   平成4年7月 構     造   鉄筋コンクリート造 2階建(片柳児童センター)の一部 主な施設   ふれあいの間</p> <p>⑧春野老人憩いの家 所在地   さいたま市見沼区春野1-7-1 設置年月   平成6年7月 構     造   鉄筋コンクリート造 2階建(春野保育園)の一部 主な施設   ふれあいの間</p>

(3) 指定管理者	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団
(4) 指定期間、指定管理料	<p>①指定期間 平成31年4月1日～令和6年3月31日</p> <p>②指定管理料 令和元年度 7,747千円 令和2年度 7,809千円</p>
(5) 施設の管理運営の内容	<p>①運営業務の状況(利用状況含む) ◇利用状況 ・利用者数 6,096人(前年度39,754人)</p> <p>◇業務実施状況 ・昨年度に引き続き基本理念である「シニア世代の生きがい、やりがいを応援し、地域の中で笑顔でつながる老人憩いの家」を目指すことと、介護予防と健康づくりの促進、生きがいづくり支援、支え合う活力あるまちづくりの推進、児童との触れ合いの場、高齢者が活躍できる場の提供をするという4つの目標のもと運営を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月1日から5月31日まで、12月26日から令和3年3月21日まで全館休館となった。休館中は、再開に向けての準備として、安心して利用していただくための感染防止対策、よりよいサービスの提供に向け、職員のスキルアップに努めるとともに、利用者への案内や問い合わせの対応に努めた。</p> <p>②維持管理業務の状況 ・コロナ過で安心・安全に利用していただくために衛生管理、感染症対策を徹底した。 ・高齢者におこりうる事故の防止対策、安全管理の体制づくりを行い、状況に応じたリスク管理に努めた(施設設備・備品の日常点検等) ・災害時に役立つ備品の整備、飲料水、非常食の備蓄を行った。 ・消防法規定に基づく法定点検を実施し、安全確保に努めた。</p> <p>③その他の業務 利用者懇談会、避難訓練、世代間交流行事(焼き芋パーティ)、卓球、囲碁/将棋、ラジオ体操、介護予防講話、健康体操、地域の老人クラブ及びサロン活動への派遣事業、おはなし会、運動支援員による運動教室、集いの場の提供、地域包括支援センター・消費者生活センターによる講話</p>
(6) 収支状況	<p>①収入 ・老人福祉事業収入 0円 (前年度 6千円) ・指定管理料収入 7,809千円 (前年度 7,747千円) ・その他 2千円 (前年度 10千円)</p> <p>②支出 ・事業費 505千円 (前年度 613千円) ・事務費 1,085千円 (前年度 1,156千円) ・施設管理費 3,664千円 (前年度 4,694千円) ・繰入金 1,204千円 (前年度 670千円)</p>
(7) 利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	<p>・日常的に施設に対する意見や要望を伝えられる仕組みとして、利用者が使いやすい場所に「みなさまの声」ボックス(意見箱)を設置して利用者の意見を伺うとともに、寄せられた意見への回答を書面をもって公表し、サービスの向上に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、休館から制限を設けた再開を行った中で利用者アンケートを7施設(※)で実施することができ、少ないながらも意見の傾向を把握するとともに、自由記述欄において個別の要望や意見をうかがい、利用者のニーズを施設運営に反映させるべく努めた。(※本郷は中規模修繕実施による休館のため、アンケート未実施) ・各施設及び法人事務局に苦情受付担当者、苦情解決責任者を置くとともに、第三者委員を配置し、苦情への迅速な対応と解決に努めた。</p>
(8) その他	

## 2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
介護予防と健康づくりの促進	・介護予防の視点による「健康体操」等の運動指導やレクリエーションを実施した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため休館や利用の制限などにより、介護や介護保険に関する講座は実施できなかったが、認知症に関する講話を開催した。 ・健康相談、栄養相談、歯科衛生相談、介護相談等、高齢者や家族が抱える「悩み」や「困りごと」に対する各種相談事業の広報活動を行った。
生きがいづくりの支援	・高齢者が趣味を深められるよう、手芸・工作教室、囲碁・将棋教室などの教養講座を開催した。 ・高齢者が諸活動への参加を通して円滑に仲間づくりができるよう、場の設定及び活動の支援を行った。
支え合う活力あるまちづくりの推進	・地域のシニアクラブ等との連携のもと、各種共催事業を開催するとともに活動の場を設定し、高齢者の地域での支え合いのシステムを支援した。 ・地域関係機関との連携、共催により、高齢者が安全・安心な生活ができるよう、暮らしに関する各種講話、防災講話等を開催した。
児童とのふれあいの場、高齢者が活躍できる場の提供	・児童センター併設という特性を生かし、児童、保護者等世代を超えた交流の場を設定し、相互理解を深めていけるよう支援した。 ・児童センター、憩いの家共催事業等、様々な活動や日常の関わりやふれあいを通して、高齢者が活躍できる場の設定及び活動の支援を行った。

## 3. 評価

(1) 指定管理者による評価

・コロナ禍で開館している期間が短く、更には利用制限のある中、感染しない、させないための感染拡大防止対策を徹底しながら、高齢者の居場所づくり(おしゃべり、読書、テレビ視聴等)や、趣味を楽しむ場(囲碁、将棋、工作等)としての場所の開放と教室の開催を行った。更には、健康体操やレクリエーション活動、運動支援員による運動教室、ラジオ体操を実施し健康づくりの促進に努めた。 ・不安の解消や、地域とのつながりが薄れてしまわぬよう、他関係機関(地域包括支援センター、消費者生活センター等)と連携し、感染予防についてや消費者トラブルについてなどの講習会の開催をし、利用者サービスの向上を図った。 ・地域住民の方々に、施設について知っていただくために広報を複数回戸別配布し、この取組を通してコロナ禍における事業の在り方の意見をいただくなどニーズ調査に努めた。 ・コロナ禍ではあるが、居場所づくり、健康づくり促進、不安解消につながる講座、地域への支援(地域活動への職員派遣)、地域住民への広報活動とニーズ調査等、制限のある中で、4つの基本目標のもと取り組んだ。 ・その他、休館時には、マニュアルを活用した施設内研修や、よりよいサービス提供に必要なスキルの習得に努め、質の高いサービスの提供につながり、満足度を上げることができた。また、業務上の課題の共有をし、そこから新しいサービスの形を模索、検討、企画へとつなげ、コロナ禍で外出できない方たちが在宅でできるレクリエーションや体操の動画配信を行った。 ・利用者アンケートでは、「職員の言葉遣いや接し方について」は99.1%の割合で親切、丁寧であるとの評価をいただいた。また、今年度は、感染症対策を行う中で利用の手続きが一部通常と異なっていたが個人情報やプライバシー保護の取組についても、施設側の取組が十分になされていると評価をいただくことができた。今後も、安全に安心して多くの高齢者に継続してご利用いただけるよう、環境整備や、感染症対策を徹底し、適切な対応を心がけていく。
---

(2) さいたま市の評価(評価担当課:保健福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価(B)※A~D
【市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進等に関する取組】 日常的に施設に対する意見や要望を伝えられる仕組みとして、利用者が使いやすい場所に「みなさまの声」ボックス(意見箱)を設置しサービスの向上に努めた点を評価した。
【経費の削減に関する取組】 予算額と決算額との乖離が僅かであり、概ね適切であると評価した。
【適正な管理運営の確保に対する取組】 地域とのつながりが薄れてしまわぬよう、新型コロナウイルス感染予防に配慮し他関係機関(地域包括支援センター、消費者生活センター等)と連携し、感染予防についてや消費者トラブルについてなどの講習会を開催したことを評価した。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めて下さい。